

提出日：令和 3 年 2 月 26 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 森田幸雄 職位：教授

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医公衆衛生学 1（前期 4 年生、後期 3 年生、獣医学科）

将来獣医師となる学生のために、公衆衛生行政における獣医師の役割、卒業生の 2 割が就職する公務員獣医師の仕事を理解させる。獣医師国家試験、公務員獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

獣医疫学（後期 3 年生、獣医学科）

疾病の流行の解析、疾病対策、食中毒対策のための疫学的手法を学ぶ。今後、卒業研究等、研究の形態や解析方法について、実践的に学習する。獣医師国家試験、公務員獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

人と動物の共通感染症（後期 4 年生、動物応用科学科）

動物の取り扱いの専門家になるための基礎教養として、人獣共通感染症をよく理解している学生の排出を目的としている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学 1	獣医学科	必修	4 年	136 名
人と動物の共通感染症	動物応用科学科	選択	4 年	40 名
獣医公衆衛生学 1	獣医学科	必修	3 年	149 名
獣医疫学	獣医学科	必修	3 年	146 名

### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

獣医公衆衛生学 1・獣医疫学

私は地方公務員の食肉検査所、保健所、衛生環境研究所、県庁の事務等の経験をしており、行政獣医師の公衆衛生上の役割を明確に学生に伝えている。実務家教員として獣医学科学生には実践経験をふまえた教育を志している。獣医師は食品衛生・公衆衛生の専門家として行政に採用されていること、すべての行動は法律のもとに規定されていることを学生につたえている。

人と動物の共通感染症

動物愛護法にともなう動物取扱管理者講習会と同様な教育をしている。まず、法律を理解し、その後、人獣共通感染症について説明をする。私は、アジア諸国との共同研究の経験があるので、日本にない感染症については、その感染症が流行している国の具体例を提示し、学生が興味をもつ授業を心掛けている。目指すものは人獣共通感染症を理解している動物取扱者の育成である。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

#### 獣医公衆衛生 1・獣医疫学

獣医師国家試験の出題傾向を把握し、講義の中に、国家試験問題をちりばめながら、しかも、次の国家試験に出題されそうな重要なところを予測しながら、授業を実施している。実務家教員であるので、たくさんの感染症や感染症防疫事例やフィールド写真を保有している。また、海外の友人から送ってもらった写真・動画がある。日本は感染症のきわめて少ない幸せな国であり、世界にはまだ様々な感染症が出現していることを説明し、経済、人、感染症の流れは地球規模であること等、日本はグローバル社会の中の先進国であること。獣医師は世界的な視野で考えなければならないことを重要視している。特徴づける方法は、動画をふんだんに用いて、視覚にうったえる授業である。

#### 人と動物の共通感染症

実務家教員であるので、たくさんの感染症や感染症防疫事例やフィールド写真を保有している。また、海外の友人から送ってもらった写真・動画がある。日本は感染症のきわめて少ない幸せな国であり、世界にはまだ様々な感染症が出現していることを説明し、経済、人、感染症の流れは地球規模であること等、日本はグローバル社会の中の先進国であること。獣医師は世界的な視野で考えなければならないことを重要視している。特徴づける方法は、動画をふんだんに用いて、視覚にうったえる授業である。

#### アクティブラーニングについての取組

##### 獣医公衆衛生 1・獣医疫学

国家試験対策もあり、覚える授業が中心であるが、関連するニュースを見せて、行政対応を予測してもらうなど、アクティブラーニングを心掛けている。

##### 人と動物の共通感染症

覚える授業が中心であるが、関連するニュースを見せて、行政対応を予測してもらうなど、アクティブラーニングを心掛けている。

#### ICT の教育への活用

##### 獣医公衆衛生 1・獣医疫学、人と動物の共通感染症

PPT ファイル、動画を使用。課題はネットをとおして、提出。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業、実習）の創意工夫（A～C） A

②学生の理解度の把握（A～C） B

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） C

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） B

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①R2年度採用であり、3つの授業で使用するスライド作り等、追われていたが、満足するスライドが作成できた。次年度はさらに修正を加えて、よりよい講義ができるようにしたい。

②④⑤は遠隔授業であり、十分ではないと感じた。R3年度は対面授業であるので、本課題を改善していきたい。

③本授業はまずは覚える授業であるので、十分に予習で覚えさせてから、授業で理解できるような授業形態にしていきたい。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

常に国家試験を意識した授業。「過去にはここが出題されました。」「私はここが皆様の国家試験ではでるのではないかと予想している」ということを、授業を進めながら、口頭やスライドで示していた。法律等、国家試験では出題されることも多いので、法律は臨床と離れた分野ではあるが、とても重要であり、獣医師法の下獣医師であり、食品衛生法のもとの食品衛生監視員等、身近なことから法律の仕組みを教えた。

## 5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

前期の獣医公衆衛生学1の結果をふまえ、後期の獣医公衆衛生学1については、早めに講義資料を学理上にアップしました。

② ①の結果はどうでしたか。

好評価をえている。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

次年度も web 授業であれば、その時の最新の感染症・食中毒のニュースを説明しようと思っている。

## 6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

R2年度と同様に、最新のニュースや話題で興味をひき、授業はその時の授業範囲で出題された国家試験問題を説明しながら、授業を行おうとおもっている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

<p>授業評価はおおむね良好であると思われる。毎回の授業で配布している国家試験対策用の pdf まとめファイルの充実をはかりたい。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p> <p>開講されている FD 関連事業には参加している。</p>
<p>8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)</p> <p>長期的な目標：家畜衛生、公衆衛生、食品衛生をきちんと理解した公務員獣医師をそだて、今の、本学の公務員獣医師に採用される人の今の 2 倍の就職を確保。</p> <p>短期的な目標：本授業とまとめ pdf ファイルを活用し、国家試験の公衆衛生分野を得意とする学生を作る。</p>
<p>9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ</p>